

《担当者名》山下佳久 (yoshiyama@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

パーソナリティ（人格、性格）は、臨床心理学のみならず、発達心理学や社会心理学、教育心理学など多くの領域で、さまざまな捉え方がなされている。「パーソナリティとは何か」という問いに対する答えも一つではなく、さまざまな角度、視点から、パーソナリティについて捉える試みが必要である。本講義では、パーソナリティやパーソナリティの発達、適応、変化などに関する基本的な概念や理論について幅広く学んでいく。

【学修目標】

- パーソナリティ（人格、性格）研究に関する歴史や基礎的概念、理論を理解する。
- パーソナリティ（人格、性格）に関する複数の理論を学ぶことにより、人間理解のための視点を豊かにする。
- パーソナリティ（人格、性格）の概念及び形成過程について概説できる。
- パーソナリティ（人格、性格）の類型、特性等について概説できる。
- パーソナリティ（人格、性格）の諸理論の探求を通して、自己理解を深める。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	パーソナリティとは何か？パーソナリティ心理学が成立した経緯について	パーソナリティの定義や理解のための視点を整理する。これまでパーソナリティがどのように研究されてきたのか、これまでの流れを説明する。また、人格、パーソナリティ、性格、気質について説明する。	山下 佳久
2	パーソナリティの概念及び形成過程	状況、認知、感情、行動について説明する。	山下 佳久
3	パーソナリティの概念及び形成過程	状況論、相互作用論、社会的認知理論、一貫性論争について説明する。	山下 佳久
4	パーソナリティの概念及び形成過程	パーソナリティの形成過程について、その連続性と変化、遺伝的要因と環境要因を踏まえて説明をする。	山下 佳久
5	パーソナリティの類型、特性	主な類型論（クレッチマー、シェルダン、ユング等）について学び、類型論の長所と短所について理解する。	山下 佳久
6	パーソナリティの類型、特性	主な特性論（オルポート、きゃつてる、ギルフォード、アイゼンク等）について学び、特性論の長所と短所について理解する。	山下 佳久
7	パーソナリティの類型、特性	5因子モデルと、6因子モデルについて学ぶ。	山下 佳久
8	精神力動的アプローチによるパーソナリティ理解	精神分析の局所論、構造論、防衛機制について学び、力動的観点から人間の行動について理解する。	山下 佳久
9	現象学的アプローチによるパーソナリティ理解	ロジャーズの現象学的アプローチやマクアダムスによるナラティブ・アイデンティティについて学ぶ。	山下 佳久
10	パーソナリティと発達（1）	乳幼児期のパーソナリティの形成について学ぶ。	山下 佳久
11	パーソナリティと発達（2）	愛着とパーソナリティとの関連性について学ぶ。	山下 佳久
12	パーソナリティと発達（3）	ライフサイクル、エイジングの観点から、成人期のパーソナリティの安定、高齢期のパーソナリティの変容等について学ぶ。	山下 佳久
13	パーソナリティと発達（4）	子どもの心の発達について、認識と関係の2軸から捉えることについて学ぶ。	山下 佳久
14	パーソナリティと文化	パーソナリティ形成に文化・社会が与える影響について、文化人類学、比較文化心理学、文化心理学からの知見を中心に学ぶ。	山下 佳久
15	パーソナリティの病理と健康	外傷や病気などによるパーソナリティの病理的变化、	山下 佳久

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		不適応行動をもたらしやすいパーソナリティ、健康なパーソナリティ、心理臨床におけるパーソナリティの適応的变化について検討する。	

**【授業実施形態】**

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

- ・授業内ミニテスト（30％）と期末テスト（70％）により評価する。
- ・授業内ミニテストへのフィードバックを随時行う。

**【教科書】**

使用しない。

**【参考書】**

適宜、伝える。

**【備考】**

- ・ノート作り、メモ書きは、各自で工夫して行うように努めること。
- ・ICTを活用した授業行う。
- 1．Google Classroomを利用して、適宜授業資料を配信する。
- 2．Google Formを利用して、授業後に理解度確認のための課題を提示する。

**【学修の準備】**

- ・本講義で配られた資料を事前に目を通すこと。（予習 1 時間）
- ・本講義で習った内容の整理・確認を行うこと。（復習 1 時間）
- ・ただの概念的理解に留まらず、日常生活における自分自身の体験や、周囲の出来事と関連付けながら、実感を伴った理解を心がけてほしい。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

次のディプロマ・ポリシーに関連する講義である。

心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を習得している。

**【実務経験】**

公認心理師

**【実務経験を活かした教育内容】**

これまでの心理臨床実践を活かした講義を行いたい。